



UVインクジェットデジタルプレス「Jet Press 540WV」

FFGS

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株)(社長:辻重紀氏)は、「FUJIFILM Inkjet Technology」の一つである富士フィルム独自の画像形成技術「EUCON Technology (ユーコン・テクノロジー)」を搭載した裏刷り・ラミネートありの軟包装用途向けUVインクジェットデジタルプレス「Jet Press 540WV」を、10月より国内市場向けに富士フィルムデジタルプレス(株)(社長:麻生修司氏)を通じて発売した。

富士フィルムでは、2000年代初めから、新たな事業ドメインとしてさまざまなインクジェット関連製品の美用化を進めており、グラフィック業界向けには、B2サイズのデジタルプレス「Jet Press 720S」や、ワイドフォーマットの「Acuity」シリーズなどをラインアップし、卓越した品質と生産性で、世界的に高い評価を得ている。

一方、パッケージ分野においては、水現像およびDLEタイプのフレキシ版による水性フレキシ印刷ソリューションを、2011年から本

高画質・高生産性低臭を実現 軟包装用UVインクジェットデジタルプレス

格的に展開。軟包装の分野を中心に、環境性・安全性・効率性に優れたシステムとして注目され、導入が進んでいる。この軟包装の市場で、近年、大きな課題となっているのが、小ロット・多品種化、短納期化への対応である。消費者ニーズの多様化や商品サイクルの短期化により、この傾向はますます強まっており、軟包装分野で主流となっているグラビア印刷では、納期やコストなどの面で厳しい状況になってきた。

こうした課題を解消するには、UVインクジェット方式のデジタル印刷機が適しているが、これまでのシステムでは、フィルム系の基材に印刷した場合、インクのにじみや臭気の残留が起きやすく、食品や生活用品などのパッケージには活用しにくいという問題があった。

そこで富士フィルムは、これまで培ってきたインクジェット技術を応用し、にじみや臭気の低減を実現する「EUCON Technology」を独自に開発。

この技術を搭載することで、さまざまな軟包装の裏刷り用途に対応したのが、今回、Jet Pressシリーズの新ラインアップとして発売する「Jet Press 540WV」である。

「Jet Press 540WV」は、信頼性に優れた搬送方式により、フィルム系の基材に対して高精度で安定した出力が可能。CMYKWの5色で毎分50枚の生産性を発揮する。また乾燥方式はLED-UV硬化のため、熱による基材への影響や電力消費量が抑えられるというメリットもある。

さらに版の作成・交換が不要になるほか、わずか15分以内でジョブ切り替えが可能なため、オペレーターの負担軽減、作業環境の改善が図れる。

システムの要となる「EUCON Technology」は、新開発のUVインク「Uvijet MK」と、インクのにじみを防止する「下塗り技術」、UVインク特有の臭気を大幅に低減する「窒素パージ技術」という3つの技術から成る。EUCONとは、「Enhanced Under Coating and Nitrogen purging」を意味する造語。<UVインク「Uvijet MK」>

「Jet Press 540WV」で使用するUVインク「Uvijet MK」は、鮮やかで美しい発色が得られ、しかも加熱処理にも耐えることが可能で、再現安定性に優れているのが特長。

フィルム系基材に対して高い密着性を発揮し、ラミネート後に画像部を加熱した場合でも、インクの剥離や溶融などが発生しない。このため製袋の際のヒートシール加工や高温での殺菌処理を行う食品のパッケージなどでも、高い仕上がり品質が実現する。

またUVインクジェット方式は、液体トナー方式に比べて、色の変動が少ないという特長がある。

<インクのにじみを防ぐ「下塗り技術」>

UVインクは、紫外線照射によって優れた速乾性を発揮するが、フィルムのような非吸収性の基材では、インク着弾時の濡れ広がり(にじみ)が発生しやすくなる。そこでインクを着弾した位置に確実に保持する「プレコート液」を新たに開発した。あらかじめプレコート液を下塗りした後にCMYKWのインク吐出を行うことにより、インクの定着性を高めることができ、クリアな画像再現が可能になった。

<臭気を低減させる「窒素パージ技術」>

Non VOCで速乾性に優れ、幅広い基材に対応できるUVインクだが、こうした数多くのメリットがある一方で、印刷後に臭気が残ってしまうという課題があった。これは紫外線硬化の際、空気中の酸素が硬化反応を阻害し、微量のモノマーが未反応のまま残留してしまつたため。そこで富士フィルムは、高速搬送される基材の表面を瞬時に窒素ガスで満たす「窒素パージ技術」を開発。酸素を完全にシャットアウトして反応効率を高め、残存モノマーを削減することによって、臭気を大幅に低減することに成功した。

「Jet Press 540WV」は、この「EUCON Technology」により、高画質・高生産性・低臭気を実現し、食品包装などで求められる安全性もクリア(注)。加えて、バリアブル印刷やエンドレス印刷にも対応でき、これまでになく独自の商品企画の提案も可能にする。

小ロット・多品種・短納期の仕事に高い機動力を提供し、高付加価値ニーズにも柔軟に応える次世代の軟包装印刷ソリューションといえる。

富士フィルムは、これからも顧客の仕事の幅を広げるために、さまざまな基材の適合性の検証にも取り組んでいく。

また今後も、独自のインクジェット技術「FUJIFILM Inkjet Technology」を核に、「Jet Press 540WV」をはじめとするデジタルプレスソリューションのさらなる拡充に取り組む、顧客の最良のパートナーとして事業拡大・収益性向上に貢献していく。(注)「厚生省告示第370号」の適合事例を確認済み。

次代を拓く最新技術

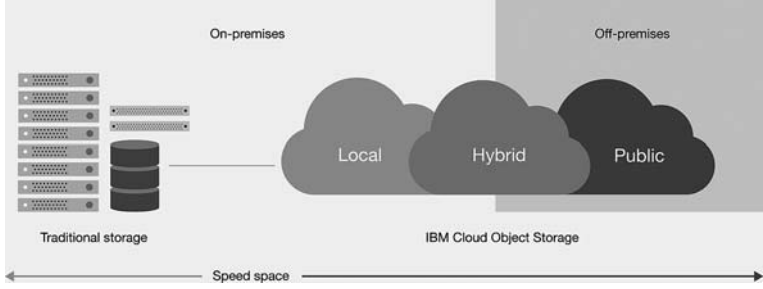
日本IBM

日本IBM(本社:東京都中央区日本橋箱崎町19-21、代表取締役社長執行役員:エリー・キナン氏)は、コンテナ技術を採用するアプリケーションの開発環境である「IBM Cloud Private(クラウド・プライベート)」の提供を、11月8日より開始した。最小構成の価格は、月額13万4000円(税込、4コア)、評価目的でのみ利用できる無償のコミュニティ・エディションも提供する。

エンタープライズ領域で、クラウド・アプリケーションの開発が浸透してきているが、インターネット経由での操作への懸念やパブリック・クラウド上にデータを置くことによるリスク対策と管理のさらなる強化、自社だけに限定されない特権IDの所有、監査証跡やログなどで、クラウド化が進んでいないアプリケーションもある。

IBM Cloud Privateは、コンテナ、Kubernetesなどオープン・テクノロジーを基盤技術として採用し、さまざまなソフトウェアと共にクラウド・ネイティブ・アプリケーションの開発と運用に必要な環境を、プライベート・クラウドまたは企業のオンプレミス環境に、迅速かつ容易に構築できるクラウド基盤ソフトウェア。

IBM Cloud Privateを利用すると、企業は俊敏性に優れ、新しい技術や発想を取り入れたモダンな、マイクロサービス化されたアプリケーションを開発し、パブリック・クラウド、プライベート・クラウドへの展開に加えて、オンプレミス環境のアプリケーションのモダン化を図ることができ、クラウド化に進めなかったアプリケーションをクラウド化することができる。



本製品は、Docker コンテナと Cloud Foundry の両方をサポートする。Docker コンテナはオープン・ソースである Kubernetes によりコンテナアプリの配置とスケリングの自動化に対する管理を集約することができる。このためアプリケーションのワークロードを任意のクラウド環境に展開するポータビリティ性、ベンダーロックインの回避などが図れる。

【主な特長】
▶マルチ・クラウド管理の自動化
▶マルチ・クラウド環境を単一の管理機能により、サービスの開始、監視、および管理がより迅速かつ容易になり、一貫したセキュリティを確保する。
▶セキュリティの脆弱性に関するアドバイス提供
▶クラウド全体のコンテナを常時スキャンし、クラウドのサービスとデータを攻撃に晒しかねない潜在的なセキュリティの問題と脆弱性を特定する。
▶データ暗号化と特権的アクセス
▶移動中のすべてのデータを暗号化し、データ・アクセス、コンプライアンス、監査要件を綿密に定義することで、クラスター内でユーザーごとに厳格なアクセス・コントロールを提供。

▶クラウド・プラットフォーム
コンテナ・エンジン、Kubernetes によるオーケストレーション、Cloud Foundry、これらのランタイムをとりまく管理ツールが含まれている。
▶インフラストラクチャーの選択肢
Cisco、Dell EMC、Intel、Lenovo、NetApp などの大手メーカーの製品との互換性、IBM Power Systems、IBM Z、IBM Hyperconverged Systems powered by Nutanix

ソフトウェアを選択できる。
▶アプリケーションと統合サービス
= IBM WebSphere Liberty、Open Liberty、MQ、Java アプリをマイクロサービス化するツール
Microservice Builder など、ソフトウェアや開発フレームワークの新しいコンテナ化バージョンを使用できる。
▶開発ツール
= APM、Netcool、UrbanCode など、あらゆるクラウド環境間でワークロードのライフサイクルを管理できる幅広い管理ツールおよび DevOps ツールを利用できる。

位置付けている。顧客が自身の状況やニーズに合わせて、コンタクト方法を選択できるマルチチャネルの実現によって、顧客とリコーグループの関係力をさらに強化し、継続的で良好な関係を構築する。

【オンラインショッピング】
OA サプライや文具・事務用品はもちろん、オフィスウェア、オフィス家具、パソコン関連用品、事務機器・家電、さらに防災用品、作業用品、生活用品、ケア(介護)用品、オーダーメイドサービス、カタログギフトなど豊富な品揃え



を低価格で提供している。【R-サービスプラス】便利なサポートツールや活用法で機器に関わるムダな業務を減らし、快適なオフィス環境づくりを支援するコンテンツ。【ビジネス支援サービス】経営に役立つノウハウや、会話やメールスキルをアップするヒント、IT に関する困りごと解決など、豊富なコンテンツでオフィスワークをサポート。

キヤノンMJ

キヤノンマーケティングジャパン(株)(代表取締役社長:坂田正弘氏、以下・キヤノンMJ)とキヤノンプロダクションプリンティングシステムズ(株)(代表取締役社長:峯松憲二氏)は、主にサイン&ディスプレイ市場を対象に、オセ社(Océ Holding B.V.、本社:オランダフェロー市、CEO:Anton Schaaf氏、以下・オセ)製の64インチ対応UV硬化型大判プリンター「0cé Colorado (コロラド) 1640」を2018年4月より発売する。価格は980万円(税別)。

【主な特長】
キヤノンMJグループは、中期経営計画においてプロダクションプリンティング事業を成長戦略の柱の一つに位置付け、事業の強化に取り組んでいる。このほど、主にサイン&ディスプレイ市場を対象としたオセ初の64インチ(約1.65m幅)ロールトールプリンター「0cé Colorado 1640」を発売することにより、プロダクションプリンティング事業の強化・拡大を進める。

新開発 UVジェルインク搭載 64インチ対応 オセ社製大判プリンター

岩崎通信機のデジタルラベル印刷機「Label Meister (ラベルマイスター)」(2017年2月発売)、木材やアクリルなどの印刷にも対応するUV硬化型大判フラットベッドプリンター「0cé Arizona I280GT」(2018年1月発売予定)とあわせて展開することで、ラベル、サイン&ディスプレイ、建築材向けの印刷など、幅広いニーズに対応する。近年、サイン&ディスプレイ市

桂川電機

桂川電機(株)(本社:東京都大田区下丸子4丁目21番1号、社長:渡邊正禮氏)は、新世代大判プロダクションカラープリンター「KIP 900シリーズ」として、ドライトナーLED乾式静電方式のA0サイズ対応高速カラープリンター「KIP 970」およびKIP スキャナーを組み合わせた複合機システム「KIP 980」「KIP 990」の3モデルを12月1

最新高速カラーエンジン採用 プリントエンジン採用 高速普通紙カラープリンター 3モデル

日より発売した。販売目標は年間50台(日本市場)。最新の高速カラープリントエンジン(水平タンデム配置、中間ベルト転写方式)を採用し、完全自動カラーレジストレーションを可能にした。大判ドキュメントの出力業務の効率化と印刷品質の向上を実現した。

また、すべてのモデルにおいて専用オートスタッカーを標準装備し、異なるサイズも綺麗に積み重ねてスタッキングできる。大判プリンターの開発で長年培ったノウハウにより、より安価に、より安定した製品を提供する。

KIP 900シリーズの印刷速度は、カラープリント535平方センチ/時(A1サイズ15枚/分、A0サイズ8枚/分)、白黒プリント(A1サイズ19枚/分、A0サイズ10枚/分)の印刷速度をすべて印刷品質モードで実現し、印刷品質モードによってはラインヘッド搭載の高速インクジェットプリンターを大きく凌駕する。この印刷速度は、印刷内容、品質モードによらず、すべての印刷において高速印刷を提供する。

KIP 900シリーズは、現像プロセスを水平にタンデム配置している。

CMYKの各トナーを転写ベルトに二次転写の後、メディアへ二次転写を行う。この方式を採用したことで、用紙へのレジストレーションの誤差を抑え、プリント品質とカラーの再現性を共に大幅に向上した。またさまざまなメディアへの印刷対応力を強化した。

【A0サイズ対応、高速普通紙LEDカラープリンター】
「KIP 900シリーズ」
▶KIP 970
=最新の高速印刷テクノロジーによ

場において、多品種少量印刷や短納期要求など多様な顧客ニーズに対応するためにデジタル化が進んでいる。特に広告やイベント向けの印刷は発注が短納期で集中する傾向にあり、生産性向上が求められている。



開発の「UVジェルテクノロジー」により、高生産性、高画質、幅広いメディア対応を実現している。

最高速モードで最速毎時159平方センチの高出力を実現しているほか、低温でのLED硬化により熱に弱いとされるオフセットコート紙や粘着紙、壁紙など幅広いメディアへの出力に対応。また従来と比較して最大40%のインク使用量の削減(※)を実現し、ランニングコストの低減に貢献する。

キヤノンMJグループは、サイン&ディスプレイの屋内外向け広告印刷や、壁紙や床装飾など、産業印刷向けに販売している。(※)オセ

同等クラス他種インクのプリンターと比較した場合。オセのテスト環境下において。【ロールトールプリンターの国内市場動向】

45インチ以上のロールトールプリンターの2016年の国内市場は約2000台。今後、国内で開催される世界的スポーツイベントに向けて、サイン、屋内外広告、販促材などの印刷需要の拡大が予想される(キヤノンMJ調べ)。

るカラーおよび白黒プリント業務を最適化。オプションの折機なども充実させていて、エンジニアリング分野でも使用できる高速フルカラープリンター。図面用途や、多くのメディアを使用する場所で威力を発揮する。
▶KIP 980 = KIP 970 プリンターに KIP 720 CIS カラー スキャナーを組み合わせた複合機システム。オペレーションパネルだけでなく、PC を利用して高精細なコピー・スキャンを可能にする。

▶KIP 990 = KIP 970 プリンターに KIP 2300 CCD カラー スキャナーを組み合わせた KIP 900 シリーズの最上位複合機システム。CCD方式のスキャナーを利用して、より精密にスキャン・コピーを実現する。

【KIP 900 シリーズ 主な仕様】
<プリンター部・本体>
モデル名 = KIP 970 / KIP 980 / KIP 990
カテゴリ = KIP 970 ・プリンター、KIP 980 / KIP 990 ・セパレート型複合機
記録方式 = LED 静電転写方式
現像方式 = 乾式非磁性一成分現像方式 (HDP Plus)
印字解像度 = 600dpi × 2400dpi 相当
トナー = C、M、Y、K4色ドライトナー(耐久・耐UV)
用途 = CAD、GIS マップ、POP、ビジネスグラフィック、簡易ポスター、書焼き代替
印字速度 = カラー・A1 横 15 枚 / 分、A0 8 枚 / 分、白黒・A1 横 19 枚 / 分、A0 10 枚 / 分
給紙幅 = 297 ~ 914 mm
印字長 = 0 ~ 6000 mm
給紙方式 = 4本ロール紙自動給紙・手差し給紙
最大消費電力 = 3.2 kW
省電力モード = 47 W 以下
電源 = AC200V (单相)、16A、50 / 60Hz × 2口使用
ウォームアップ = 6分以下 (摂氏23度 / 60%、定格電圧時)
寸法 = (W) 1500 mm、1970 mm、1970 mm / (D) 1080 mm、1080 mm、1080 mm / (H) 1220 mm、1220 mm、1220 mm
質量 = 550 kg

カテゴリー = KIP 970 ・プリンター、KIP 980 / KIP 990 ・セパレート型複合機
記録方式 = LED 静電転写方式
現像方式 = 乾式非磁性一成分現像方式 (HDP Plus)
印字解像度 = 600dpi × 2400dpi 相当
トナー = C、M、Y、K4色ドライトナー(耐久・耐UV)
用途 = CAD、GIS マップ、POP、ビジネスグラフィック、簡易ポスター、書焼き代替
印字速度 = カラー・A1 横 15 枚 / 分、A0 8 枚 / 分、白黒・A1 横 19 枚 / 分、A0 10 枚 / 分
給紙幅 = 297 ~ 914 mm
印字長 = 0 ~ 6000 mm
給紙方式 = 4本ロール紙自動給紙・手差し給紙
最大消費電力 = 3.2 kW
省電力モード = 47 W 以下
電源 = AC200V (单相)、16A、50 / 60Hz × 2口使用
ウォームアップ = 6分以下 (摂氏23度 / 60%、定格電圧時)
寸法 = (W) 1500 mm、1970 mm、1970 mm / (D) 1080 mm、1080 mm、1080 mm / (H) 1220 mm、1220 mm、1220 mm
質量 = 550 kg



リコージャパン

リコージャパン(株)(本社:東京都港区芝3-8-2、芝公園ファーストビル、代表取締役社長執行役員CEO:松石秀隆氏)は、総合インターネットサービス「NetRICOH」のオンラインショッピングで提供するOAサプライや文具・事務用品、オフィス生活用品、パソコン関連用品、事務機器など約2万7000点を掲載したオフィス通販カタログ「NetRICOH(ネットリコー)カタログVol.133」を11月22日に発刊した。

厳選した2万7000点掲載 オフィス通販カタログを発刊

品、オフィス生活用品、パソコン関連用品、事務機器など約2万7000点を掲載したオフィス通販カタログ「NetRICOH(ネットリコー)カタログVol.133」を11月22日に発刊した。【「NetRICOHカタログVol.133」の主なポイント】(1)厳選した品揃え「NetRICOH」のオンラインショッピングで取り扱っている約8万4000点の中から定番商品などの約2万7000点を厳選して掲載した。秋冬用のオフィスウェアや暖房器具など季節に合わせて、約1000点の商品を入れ替えている。(2)「NetRICOHデジタルカタログ」も刷新「NetRICOHカタログVol.133」のWeb版となる「NetRICOHデジタルカタログVol.133」を、2017年12月1日午後1時に公開した。このデジタルカタログは、Adobe Flash Player をインストールしていなくても閲覧可能。またタブレットやスマートフォンでも付箋・ペン機能や「ほしいものリスト」など便利な機能を利用できる。(3)オフィスに役立つ充実の巻頭特集

「NetRICOHカタログVol.133」では、オフィスに役立つさまざまな

特集やコラムを掲載している。
▶テーマ別商品特集「プロジェクトを使いこなせば、情報共有や作業がもっと楽になる!」
会議室での投影といった従来の用途だけでなく、小型化・高機能化による進化したプロジェクターをラインアップ。小規模ミーティングや顧客先で投影できるハンディモデルや、受付のデジタルサインレジとして活用できる超短焦点モデルなど、多彩な

活用方法を紹介します。
【オフィスのなへるほど】
顧客からのリクエストに応えて「ビジネスマナー」(業務効率アップのためのパソコン技)「年末年始の大掃除」を取り上げ、顧客の快適なオフィスライフを支援。【リコーグループの取り組み紹介】子供達に科学の不思議と楽しさを伝える「リコー・サイエンスキャラバン」の取り組みや、RPA(ロボティックプロセスオートメーション)を活用した定型業務自動化の社内実践事例を紹介していく。【「NetRICOH」について】

「NetRICOH」は、オフィスのさまざまなニーズに応える総合インターネットサービス。登録した顧客一人ひとりに専用ページを用意しておりOAサプライ、事務機器、パソコン、プリンターおよびその関連用品などを「いつもと同じ」安心感で簡単に発注できる。また使用しているリコー機器の使用状況の報告やサポートソフトウェア更新情報を提供するなど、顧客のスムーズなオフィス業務をサポートする。リコージャパンは「NetRICOH」を、営業やカスタマーエンジニアなどと同様、顧客とリコーグループを結ぶ接点チャンネルのひとつと